

令和2年4月24日

学校法人育英館 四万十看護学院

学校関係者評価委員会

令和元年度学校関係者評価委員会報告書

令和2年3月25日に開催された委員会の討議に基づく検討課題と改善に向けた取り組みについて評価結果をまとめた。

I. 学校運営目標について

1. 国家試験合格率について

第109回国家試験が令和2年2月16日に実施された。看護師国家試験において、全国では新卒受験者59,320名に対し、合格者56,175名（合格率94.7%）であった。

本校新卒学生の受験結果は、第109回国家試験の場合、91.9%であった。まずまずの合格率と評価できよう。開校以来の結果を振り返ると、第105回国家試験では、全国平均の合格率が94.9%、本校卒業生の合格率は81.4%。第106回国家試験では、全国平均の合格率が94.3%、本校卒業生の合格率は78.9%。第107回国家試験では、全国平均の合格率が96.3%、本校卒業生の合格率は91.7%。第108回国家試験では、全国平均の合格率が94.7%、本校卒業生の合格率は86.5%と、全国平均の合格率を若干下回ってはいるものの、着実に改善の方向に向かっていることがうかがえる。

（学校関係者評価委員からの意見）

国家試験合格率の向上のために、どのような対策を取っているのか。本校の合格率について、その要因分析、加えて既卒学生へのフォロー、取り組みについて説明を求めたい。

（学校としての対策）

3年課程の養成期間のうち、1年次から意識づけや実習との関連づけ、3年後期には受験勉強に専念できるよう配慮をしている。遠隔システムを活用した国試対策講座の受講を入学後早期から開始している。模擬試験の成績が不振な学生に対しては3年担当の教員が個別にサポートを実施。学習方法・日常生活の過ごし方、不安に対する丁寧なヒアリング及び指導を行ってきた。

さらに模擬試験の結果と、併せて各学年の看護師国家試験対策委員会とともに問題点を分析、指導方法について対応を検討したうえで、個別の学生が苦手とする分野を担当する教員へ情報共有し、苦手分野克服のために学修支援を重層的に実施している。また、面談を重ね、精神的なサポートを丁寧に行った。

既卒学生については、本校の空き教室を1室提供し、学習に取り組むことができる環境を提供した。また、3年生に模擬試験を実施する際、外部講師の集中講義等については、既卒学生にも積極的に参加を促し、同時に取り組みができるよう調整した。

既卒学生本人が持参した教材以外に、毎日欠かさず課題を提示、教員が採点し、理解できない個所については、個別に指導を行う対応を行った。

また、模擬試験の結果から、苦手分野のフォローとして個々の学生に教員が作成した個別教材を提供し、理解ができていない場合には個別に教員が指導の上、類似問題を提供し、苦手意識を克服できるよう支援してきた。専任教員が既卒学生が使用している教室に随時入室し、一人ひとりの学生が困っていることはないか等確認し、問題があればその解決に向けた支援を行うよう配慮した対応にあたった。

2. 3年間卒業率について

今春、第5期生が卒業し、社会へと巣立った。平成28年度入学生であった第4期生の入学数は42名であった。これらのうち、本校修業年限の3年間で卒業できたのは36名(86%)、これまでの入学生172名のうち154名(90%)であった。

(学校関係者評価委員からの意見)

平成27年度入学生の卒業率が83%という時期もあったが、全体を通してみると90%代と改善している。どのような取り組みを本校ではされたのか。

(学校としての対策)

学年によって、クラスの雰囲気は異なります。1学年・2学年の各クラス運営では、人付き合いの苦手な学生にもクラス内に居場所を確保できるよう、学生間で配慮する等、自主的に取り組んでいる。また、クラス担任が度々面談を行い、きめ細やかな対応に努力している。

3. 退学者および留年者数について

平成26年度から平成31年度にかけて当初の在学学生総数は294名であった。このうち退学者は、令和1年10月1日現在で総数20名、留年者は17名であった。退学者数の多かった平成27年度以降、現在は減少傾向にある。一方で留年者数は平成28年度から平成30年度にかけて増加の傾向にあったが、平成31年度新たな留年者は1名と落ち着きを見せている。

(学校関係者評価委員からの意見)

特になし。

4. 入学試験受験者実数について

入学定員40名に対して、平成31年度は62名であった。入学生確保のためオープンキャンパス開催、進学ガイダンス参加、高等学校訪問等の学生募集活動を積極的に取り組んだ。一方で、日本社会は少子高齢化の真ただ中であり、18歳人口の減少と、なのに相反して看護師養成施設の高等教育課程の増加により、今後さらなる受験者増に向けた戦略を、たてながら社会的ニーズにこたえる努力を怠ることのないよう取り組んでいる。

(学校関係者評価委員からの意見)

平成25年度から平成31年度にかけて、各年度の内訳はどうなっているのか。

(学校としての対策)

平成25年度は受験者数153名。平成26年度は66名。平成27年度は62名。平成28・29・30年度は各々51名。平成31年度は62名、合計496名であった。

5. 就職率について

第1期生(平成27年度)卒業生は43名。そのうち高知県内に就職したのは7名(うち5名は幡多地域)であった。四国内では他に愛媛県に2名が就職。九州で就職したのは7名、沖縄は6名。関西圏域には12名。関東圏域には4名。その他が3名、就職率は93%であった。

第2期生(平成28年度)卒業生は38名。そのうち高知県内に就職したのは7名(うち3名は幡多地域)。九州に就職したのは6名、沖縄は3名。関西圏域には15名が就職。中部圏域に3名が就職し、関東圏域には1名が就職した。その他は3名、就職率は92.1%であった。

第3期生(平成29年度)卒業生は36名。そのうち高知県内に就職したのは9名(うち6名は幡多地域)。四国内では他に愛媛県に2名が就職。九州で就職したのは7名、沖縄は7名。関西圏域には8名が就職。中部圏域に就職したのは2名であった。その他は1名、就職率は97.2%であった。

第4期生(平成30年度)卒業生は37名。そのうち高知県内に就職したのは8名(うち4名は幡多地域)。四国内では他に香川県に就職したのは1名であった。九州で就職したのは5名であり、沖縄には4名が就職。関西圏域には15名が就職。中部圏域には1名、関東圏域には2名が就職。その他は1名、就職率は97.3%であった。

第5期生(令和1年度)卒業生は37名。そのうち高知県内に就職したのは5名(うち5名が幡多地域)。四国内では愛媛県に3名、香川県に2名、徳島県に1名が就職。九州に就職したのは3名。沖縄県には4名が就職。関西圏域には10名が就職。富山県・静岡県に各1名が就職し、関東圏域には6名が就職。その他は1名、就職率は97.3%であった。

年々就職活動が早期化し、就職を意識した面接・小論文対策に注力している。

(学校関係者評価委員からの意見)

ほとんどの学生が看護師として就職しているが、それ以外の学生についてはどのような分野に就職しているのか。

(学校としての対策)

医療分野にほぼ全員が就職している。